# 東京バッハ合唱団 月報

［第525号］ 2006年3月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋5-17-21-101 Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
E-mail：bachchortokyo@aol.com http：//www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.525
March 2006
—
5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo


## イヴァン・イリイチ『生きる意味』を一読して

大村 恵美子

丸山真人様

私のお願いに応じて、さっそくにお寄せくださった、イリイチ（1926-2002）についてのご紹介、ほんとうにありがとうございました（「月報」2005年12月号〔第522号〕）。あなたの文章から推察されるイリイチ像というものは、とても先端的で、厳密・複雑な思想でありながら、極端にラディカル（根源的）で単純な結論にいたる生き方をする人という印象で、『生きる意味』の訳書（デイヴィッド・ケイリー編：イバン・イリイチ『生きる意味』高島和哉訳、藤原書店・2005年9月刊）を読むにあたって、どこからでもはぐらかされることのないよう、できるだけゆっくり精読してみようと、私にしてはめずらしく時間をかけることになりました。

とても偉大で博識、英断に富んだ人間が、世界中からオピニオンリーダーとして尊重されながら、多くは理解されずにぶつかられたり、そんななかでも、自分自身多くの他者から大きく影響を受けたり学んだりして果敢に自己変革をつづけ、当然のことながら、つねに深い孤独のうちに生きた、そんな姿に心うたれました。

ここで、私の位置にまで話を落として、あらっぽい感想になりますが、私はイリイチのキリスト教理解に、ほとんど全面的に賛成できる立場です。よく、〈イェス教〉だと非難されそうなのですが、イリイチの次のような言葉も、それに近いのではないでしょうか。

> いまこの瞬間〔自分が〕こうしていきいきと存在していることを深く楽しむことであり、お互いにそうすることをすすめあうこと（……）、しかも、できるだけ裸の〔ありのままの〕姿でそうすること、つまり裸のキリストにならって裸の姿で（……）そうすることなのです。（訳書p.424）

人間の自己責任による開発とか、管理支配、統制などに対するイリイチの強い警告も、たとえば「いっさい誓うな」というイェスのことばから、自然に発する態度のように考えられるでしょう。それも大賛成で、未来に対する悲観主義とみなされかねないのですが、ちがいます。

> 責任という概念は（……）自分が責任を負っているものに対して、自分は何かをなしうるという信念と結びついた、独特な倫理なのです。（同p.425）

「神は死んだ」というニーチェの言に対して、イリイチはボンヘッファーのことばを引用します。

> わたし自身は、ルーテル派の牧師であり神学者でもあった、ディートリッヒ・ボンヘッファーに立ち返りたいと思います（……）、かれはこう述べています。キリスト教徒は、神が存在しないかのごとく（……）語らねばならないと。（同p.415-416）

未来・死後について、なんのイメージもつくらず、いま生きていることに感謝し、集中させて、たとえばバッハの音楽に心をそそいで讃美しよう、という、私の楽天主義、じつは明るい虚無主義のようなものは、イリイチの結論めいたつぎの態度につながると、私は信じるのです。

> それゆえわたしは、〔人びとに〕いまをいきいきと生きよう let's be alive と呼びかけます。あらゆる痛みや災いを抱えつつ、この瞬間に生かされてあることを祝福し―心から祝福するのです―そのことを自覚的、かつ儀礼的に、また、率直に楽しもうと呼びかけるのです。わた

### 来年の《マタイ受難曲》 日時・会場決定

**日時：2007年3月21日（水・祭日）午後5時開演**
**会場：NEW杉並公会堂大ホール**

NEW杉並公会堂は、本年6月、杉並区・荻窪に新装オープンする、シューボックス型の本格的なコンサートホールとして前評判の高い施設です。

記録を見ますと、当合唱団は第19回（1970年3月、小林道夫指揮）から第39回（1977年4月、堤俊作指揮）までの期間に計11回の定期演奏会を、この"旧"杉並公会堂を会場として活動しており、いわばかつてのホームグラウンドのような存在と言えるかも知れません。気軽に使える公共の音楽専用ホールというものを持たなかった時代に、まずまずの音響の会場だったわけで、隔世の感があります。

創立45周年、かつ第100回の記念すべき定期演奏会の会場が、《マタイ》準備委員の方々の努力と幸運の女神のおかげをもって、この理想的な会場に決定したことを、先ずはみなさまにお知らせいたします。

ちなみに、公演日の3月21日はなぜ祭日かというと、ヨハン・ゼバスティアンの322回目の誕生日だからです(!)。

1189席のキャパシティを満席にして、記念の《マタイ受難曲》日本語公演を成功させたいものです。

しには、そのようにして生きることが、絶望や宗教心―あの非常に邪悪な種類の宗教心―に対する解毒剤になると思われるのです。(同 p.426)

(“let's be alive”を、わが合唱団の合言葉・モットーにしてもよいかと思います。)

イリイチは、根っからのヨーロッパ人であり、キリスト教信者です。どんなにコスモポリタンであっても、そのことは紛れもなく、その点で、日本人・日本文化などについて、大きな憧れをもちながら、ついに接近不可能を感じていたようです。

数年前、来日したすぐれたドイツ人神学者が、講演のなかで、「わたしは鎌倉の大仏を見ましたが、それにくらべてキリストの十字架像はどれほど心に迫ることか」と、驚くほど無神経な(正直な?)感想を吐露したのを聞いて、私は驚いたことがあります。このことは大きな問題で、イリイチも、キリスト教の歴史と文化に批判を加えていますが、とても簡単にあつかえる問題ではありません。

キリスト教が興って以後の最初の千年間、キリスト教徒たちは、空虚な墓の上に築かれた聖餐台と呼ばれるテーブルのまわりに集まり、その場所で、神がいまここには存在しない事実を讃えていました。(……) そしてかれらの描いた絵が (……) イコンという、ある特定の主題を描いた絵画でした。イコンは、それに向かって祈り、礼拝する人びとの心や内なる目に、目に見えないものをありありと思い描かせる目的で描かれたのです。西欧ではジョット以降、しだいに福音書の諸場面が描かれるようになります。(……) かれらはそうやって過去の出来事を想起することを、幻覚や空想や夢や妄想に耽ることとは区別していたのです。(同 p.420)

私自身は、キリスト教にしても、仏教にしても、宗教に関する造形美術の存在に好意をもっていません。いくら賞讃される仏像やゴチック建築などでも、本質的には、人間が神にむかっておのが力量を誇示しようとした“バベルの塔”に他ならないと思えるのです。それでも私たちがバッハの《マタイ受難曲》を演奏しようとするときに、聖書も読まない、キリスト教の歴史も学ばない、たくさん残されている宗教画もかえりみない、というのは、まったく傲慢な態度だと思います。日本がキリスト教文化に遠ければ遠いほど、できるかぎり敬意をはらって、それらを学ぶのでなければ、《マタイ》を歌う意味がありません。そういう意味でも、私は月報の「受難曲と美術作品」の連載を思いついたのです。

イリイチについても、わずかばかりを読んだだけで、あの人はこういう人と、かたづけることを慎もうと思っています。丸山さんからも、生前のイリイチの友人でいらしたのですから(イリイチ氏は〈丸山真人〉の名をあげて、話していらっしゃいますね (同 p.292))、これからもいろいろと教えていただきたく、重ねてお願いし、たった一冊を一読した時点での感想をお伝えします。

(2006年1月10日)

## 《マタイ受難曲》夏期集中練習

**―遠隔地からの合唱参加にも対応―**

東京バッハ合唱団では、これまでにも何度か合宿などの形で、大曲の演奏会や海外演奏の前に、集中練習を行なってきました。

今年は、野尻湖合宿のかわりに、8月の毎土曜日(4回)に、東京のいつもの練習場(世田谷中央教会)で長時間の練習を計画しています。往復の時間も自由時間もはぶいて、極力、実質的な集中練習となることを期したものです。

実施日時　2006年8月5日,12日,19日,26日(土)
　　13:00 ―19:00
会場　　全4回とも 世田谷中央教会
練習内容の予定
　8月 5日　冒頭合唱…1 (数字は《マタイ》の曲番号)
　8月12日　中間と終結の大合唱…29,68
　8月19日　主要コラールⒶ…15,17,44,54,62
　　および、その他の合唱曲…3～37
　8月26日　その他の合唱曲…38b～67

都内や近郊の施設で合宿する例も多かったのですが、時間的・経済的な負担をおさえることで、ひとりでも多くの方が、参加していただけるようにと願っています。

また、首都圏在住でない方も、この機会に何度か参加することで、足並みをそろえやすくなるのではないかと思います。各自、あらかじめ予定を調整して、この企画を成功させてくださるよう希望します。練習は、ドイツ語・日本語両方で行います。

## 第101回定期演奏会(2007年12月)曲目と以後の選曲について

創立45周年(2007年3月21日、第100回)の定期演奏会で《マタイ受難曲》を上演したあと、12月の第101回定演も、特別プログラムとして、次の3曲を演奏することになりました。3 曲とも、団としては何回か演奏したものですが、新たな感慨をこめて世に送り出したいと思います。

1.モテット《イエス 喜び》BWV227(第3番)
　(合唱とオーボエ族、弦・通奏低音)
　定期演奏会…23回ᴰ、29回ᴰ、43回、53回、77回
　ドイツ巡演…1983年ᴰ、1988年ᴰ　(ᴰはドイツ語演奏)
　特別演奏会…東大オルガン演奏会ᴰ(1979年)など多数
2. カンタータ第65番《もろびと シバより来たりて》BWV65
　(顕現節用. 独唱T・B、合唱、ホルン2、リコーダー2、弦・通奏低音)
　定期演奏会…32回、76回(1994年)
3.モテット《主にむかいて歌え 新たの歌》(第1番)

（合唱とオーボエ族、弦・通奏低音）
定期演奏会…22 回ᵈ、43 回、53 回、73 回（1993 年）
ドイツ巡演…1983 年ᵈ、1993 年ᵈ
特別演奏会…東大オルガン演奏会ᵈなど多数

なお、第 102 回定期演奏会以後のプログラムは、1 月の団員相談会で選任された選曲委員の方々を中心に、検討を進めてくださっていますが、主宰者の希望としては以下の案を提出させていただきました：

A：「バッハ・カンタータ 50 曲選」中の楽譜未使用曲（22 曲）
B：楽譜未刊行 142 曲中の既演曲（61 曲）
C：　　同上　　中の未演曲（81 曲）

の 3 つのグループから適宜選んで、3 年分ずつくらいにまとめて企画、発表してゆければと願っています。

ご希望の曲やシリーズ企画のアイディアなどがある方は、どなたでも随時お申し出くださるよう、お待ちします。

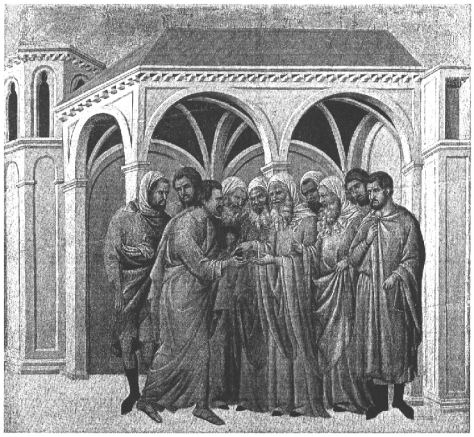
## 受難曲と美術作品 ③

白木博也（後援会員、画家）

### ユダの裏切り

ユダはひそかに祭司や長老をたずね、キリストを売り渡した。その代価は銀貨 30 枚。裏切りの契約である。

■ジョット・ディ・ボンドネ（1266-1337）
イタリア・パドヴァ，スクロヴェーニ礼拝堂



■ドゥッチョ・ディ・ブォニンセーニャ
（1255/60-1315/18）
イタリア・シエナ，
ドゥオモ美術館

## 次回定期演奏会（2006 年 5 月 13 日）演奏曲目の紹介

### カンタータ第 187 番《待ち望む みななれを》
„Es wartet alles auf dich“ BWV187
訳詞／解説 大村恵美子

**[歌詞]**

**第 1 部**

**1. 合唱**
待ち望む みな なれを
時を 得て 糧(かて)を 賜わんと.
主 賜うとき そを 受け
み手を 開くとき 彼ら 良きものに 満たさる
（詩編 104：27,28）

**2. レチタティーヴォ（バス）**
大地は いかに 豊かなる
見よ 山々 ならびて 聳(そび)ゆ
川も 海も あふれて 流る
鳥の 群れは 大空に 舞う
この 数多(あまた)を
たれか 養い 保たしめん
いずこの 王侯(きみ) そを よく 為すや
財(たから) 積みて 生かすを 得んや

**3. アリア（アルト）**
日々の 栄えは 主の 恵み
　み跡(あと) 辿りて
　祝福を 受けん み恵みに より

**第 2 部**

**4. アリア（バス）**
思いわずらい 言うな: 何を 食らい 何を 飲まんと
わが 身に 何を 纏(まと)わんと
これら みな 信仰 なき 者の せつに 求むるもの なり
主 み父 すでに 知る
なれらの 求むるもの すべてを
（マタイ 6：31,32）

**5. アリア（ソプラノ）**
神 生かし 養いたもう
地に 住むもの すべてを
みなに 約したまいしを
われのみ 外(はず)したもうこと なし
消え去れ わずらい
主の まこと われを 顧(かえり)み
日々 新たに 賜う
愛の たまものを

**6. レチタティーヴォ（ソプラノ）**
幼な児の ごとく よりたのみ
主の たまもの 喜び受けん
寄る辺なき 者に あらず
わが 前には み心 生く

嘆き 恨み 疲れも むなし
心 惑い 乱れ動く
富める 神は われをも 気づかいて
わがもの しかと 定めたもう

7. コラール
**主は 大地 ととのえ / 養いたもう**
**山 谷 うるおし / 緑に 蔽い**
**地より パンと 酒 / 生(な)らせ 飽かしむ**
**いのちある ものを**

**謝して 祈るべし / 聖霊(みたま)を 送り**
**悟らせたまえ / 道に 従い**
**み名を 讃えて / 感謝の 歌を**
**献げしめたまえ**

(Hans Vogel „Singen wir aus Herzensgrund“ 1563 第4,6節)

**[解説]**

初演：1726年8月4日（三位一体節後第7日曜日），ライプツィヒ．歌詞作者不詳．教会暦のこの日の福音書は，マルコ8：1-9（4千人に食べ物を与える）．

規模雄大な，堂々たる地球エコロジーのカンタータで，バッハ自身がこの作品にどれほど満足していたかは，のちに1730年代末になって《小ミサ曲ト短調》BWV235に改作したときの，パロディー（歌詞のみ入れ替えて，音楽を転用する）の仕方にもあらわれている．

| カンタータ BWV187 | 小ミサ曲 BWV235 |
|---|---|
| 1.合唱 | 1.Kyrie(合唱)［BWV102/1］ |
| 2.レチタティーヴォ(B) | 2.Gloria(合唱)［BWV72/1］ |
| 3.アリア(A) | 3.Gratias(アリア・B) |
| 4.アリア(B) | 4.Domine Fili(アリア・A) |
| 5.アリア(S) | 5.Qui tollis(アリア・T) |
| 6.レチタティーヴォ(S) | 6.Cum Sancto Spiritu(合唱) |
| 7.コラール | |

すなわち，カンタータ187番で心血そそいで作曲した冒頭合唱を，小ミサ曲の終結合唱として生かし，また独唱者3人によるそれぞれ個性豊かなアリアを，順序を入れかえ，ソプラノをテノールと替えながらも，3曲そのままとりいれている．新しいひとつの作品に同じカンタータから4曲もの主要な部分を活かしてもちいたことは，バッハの，このカンタータへの傾倒ぶりを実証するものである．ちなみに，小ミサ曲冒頭の2つの合唱曲は，当カンタータと同年の2作品からの転用である．

内容としては，2部分構成の前半は，旧約聖書詩編104：27,28からとられた，地球全体の生物に対する神の恵み．「彼ら（大小の生き物）は皆あなたが時にしたがって 食物をお与えになるのを期待している．あなたがお与えになると，彼らはそれを集める．あなたが手を開かれると，彼らは良い物で満たされる」（冒頭合唱）．具体的に養われるもののめぐみを各曲で強調する．

説教後の後半は，つぎのイェスのことばで始められる．「だから，何を食べようか，何を飲もうか，あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな．これらのものはみな，異邦人が切に求めているものである．あなたがたの天の父は，これらのものが，ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである」（マタイ6：31,32）．宇宙全体をおおう神の摂理の豊かさを思い，感謝して素直なこころで受けることが歌われ，神-自然-人間の美しい関係が，示される．

**第1部**

**1. 合唱**

オーボエ2，弦合奏と合唱による，フーガをふくむ長大な音楽は，一定の主題をもちながら，変転きわまりない多様な展開をしめし，あとからあとからと新鮮な細部の動きが加わって，この時期のバッハの逞しい成熟ぶりが満喫される．

**2. レチタティーヴォ（バス）**

大地，山，海，空，そこに生きる生物たち，それらはとうてい人力では養うことができない．

**3. アリア（アルト）**

人間の日々の生活も，神からの賜物（たまもの）で満たされる．8分の3拍子の，軽やかでしかも深い想念をたたえた曲．

**第2部**

**4. アリア（バス）**

第2部冒頭の，新約聖書のイェスのことばによるアリアで，全曲の中心をなしている．内容にふさわしく，簡素な，通奏低音のみの慈愛あふれるイェスの呼びかけは，この世でさまざまな欠乏になやむ人々にも，天の父は私たちの窮状をみな知って，かえりみてくださる，との慰めと信頼のあたたかい調子で締めくくられる．

**5. アリア（ソプラノ）**

そのイェスの呼びかけをうけて，豊かな装飾にいろどられたオーボエをともなったソプラノが，神への信頼を歌う．中間部では8分の3拍子の舞曲風な軽やかさに転じ，再現されるアダージョ部分は，もう楽器のみの後奏となって，ゆたかな余韻を味わわせてくれる．

**6. レチタティーヴォ（ソプラノ）**

たっぷりとしたアリアのあとに，同じソプラノが，幼な児のように純粋な神への信頼を説き，私たちの心にこのカンタータのメッセージを鮮やかに刻みこむ．

**7. コラール**

ハンス・フォーゲル「われら心より歌わん」Hans Vogel „Singen wir aus Herzensgrund“（1563）の第4節と6節をくり返して歌う．大いなる自然と，そこに生育し，多くの生物をやしなう糧，それらすべてを掌握される神への感謝．

この音楽の中には，近代・現代と経過するにつれて，自然を支配し，征服し，強奪してきた人類の傲慢さはない．私たちはふたたびこの調和の世界を回復させるべく，地球環境の最大の加害者である人類を，あるべき被造物の一員としての自覚へと，みずから呼び起こしてゆかねばならない．〔第83回定期演奏会プログラム（1998年）に加筆〕

FINE